



ARTIST
NO
KOSODATE?

アーティスト
の
子育て

01 住まい 神奈川県

02 年齢 40代

03 性別 男性

04 子どもの数 2人

05 子どもの年齢 8歳、3歳

06 作家活動以外に仕事をされている方は、
可能な範囲でお仕事の内容を教えてください。

庭木の剪定など、植木業をやっています。制作が忙しい時は週3日くらい、多い時は週6日くらい働いていますが、実際には雨で流れることもあります。仕事は個人事業主として請け負っています。

県内はじめ、都内や埼玉、千葉へも出かけていくので移動時間がかかり、朝6時頃家を出て、夜の7時頃に帰宅することもあります。

07 保育園・幼稚園などの保育サービスを利用していますか？
または過去に利用しましたか？☒ はい ☐ いいえ

08 (07)が「はい」の場合、預け先は？

☐ 保育園 ☐ 通常保育 ☐ 一時保育 ☐ 認可 ☐ 認可外 ☐ 幼稚園 ☐ ファミリーサポートセンター
☒ その他

子ども二人とも、保育園や幼稚園には入園申請せず、自主保育を選びました。

年齢によって実施回数は違いますが、今3歳の子は、週に3回、9時半から13時半くらいまで行っています。出かける場所は毎回違って、保育士一人と保護者が子どもたちを引率して、山登りなどの野外活動をしています。

保育園や幼稚園に預けると、子どもが何をやっているか把握できなくなってしまうので、小学校に入るまでは一緒にいる時間を大切にしたいという思いから自主保育を選びました。ただ、子どもと一緒にいる時間が長くなるので、その状況で作品を制作していくのは大変です。

09 お子さんをもった後、作品制作時間はどう捻出していますか？〈複数回答可〉

☒ 保育園や学校に行っている間 ☒ 睡眠時間を削る ☐ 子どもが寝てから ☒ 早朝 ☐ 実家・親に預ける
☒ 配偶者に預ける ☐ 仕事の合間 ☒ 仕事が休みの日 ☐ 捻出できない ☐ その他

第一子の時は、子どもと一緒に夜9時頃に寝て、忙しい時は夜中2時頃に起きて朝6時頃まで作品を制作し、それから仕事に行ったりしてました。それと、仕事は割と自由がきいて、あらかじめ自分で休む日を決められるので、制作に合わせて出勤日を調整し、仕事が休みの日に制作していました。自分の作品はとにかく時間がかかるので、制作時間の捻出は大切です。子どもの面倒は妻にみてもらうことが多いですが、妻も自分も忙しい時

は、話し合いで午前と午後で交代して、午前は制作して午後は子どもを見ることもあります。妻が忙しくなければ、自分は制作を優先させてもらうことが多くて、制作の合間にちょっとご飯作ったりとか洗濯物をたたんだりとか、できることを手伝っています。そして、よっぽど忙しくない限り、毎週日曜日は制作しないで、ずっと子どもと一緒に過ごしています。

**10 一日のうちで、①育児にかかる時間、②作家活動にかかる時間、③作家活動以外の仕事にかかる時間は、お子さんをもつ前と現在とではどう変わりましたか？
およその時間を教えてください。**

① 育児：0時間 → 平日2～5時間、休日17時間

② 作家：0～17時間 → 1～10時間

③ 仕事：13時間 → 13時間

作家活動の時間は、考えてみれば子どもが生まれてからの方が長いかもしれません。制作に対する思い入れが、子どもが生まれてからの方が強くなっているからです。それまでは自由過ぎたり制約がなさ過ぎたりして、映画を見たり、山に登ったり、ヨットに乗ったりと娯楽に費やす時間も多く、制作に集中する時はするけれど、しない時は全くしないという感じでした。でも今は違いますね。今は暇さえあれば制作しています。

11 お子さんをもった後、作品制作の環境(場所)は変わりましたか？

変わりました。第一子が生まれることが分かって、今の家を探して引っ越してきました。改装してもよいという物件だったので、3畳くらいのスペースの部屋を5畳くらいに広げるようにして自分で壁を作って、自宅内にアトリエを整えました。

自宅が狭いこともあり、作品保管場所としては屋外にレンタルボックスが設置されている倉庫を借りています。2階建てのうち1階で木の陰になっていることもあって、特に作品がダメージを受けたことはありません。真夏の日中に倉庫に入っても、むわっと暑いということは今までありません。自宅にしまい込んでしまうと、海が近くて塩分とか湿気が多いので、かえって環境がよくないかもしれません。

12 お子さんの存在が作品に影響し、作風や扱う素材、制作方法などは変わりましたか？

テーマも素材も変わりません。シルクスクリーンで何度も版を重ねて作品をつくっています。でも子どもが生まれたからこそ、自分を追い込んで、すごく大変な目標を設定して制作に取り組みました。子どもが生まれたことで制作ができなくなるのが嫌で、ちょっと意地になって自分にハードルの高い課題を課して、手間をかけて作った最初の作品はすごくいいのができました。それまでは版を重ねても5,000回足らずがせいぜい。子どもが生まれてから最初に作った作品は10,000回刷っています。それは実際の山に行けないということも理由にあると思います。子どもが生まれてからは一貫して、山に登るように山頂を目指して作品を作っていて、作品サイズも大きくなりました。子どもが生まれたことで、向かうべきところがはっきりしたというか、力の注ぎ先を一手に集中させることができました。

13 コロナ禍が子育て中の制作に何か影響を及ぼしましたか？

コロナ禍の影響で、予定されていた展覧会がなくなったり延期になったりしました。でも、子育てに関しては特に不便は感じません。人混みを避けるといっても、歩いてすぐ海にも行けますし。

第一子が小学校に入学する時にコロナが流行りだして、入学時期が2か月くらい遅れたことはありました。でも、生活としてはそれまでと変わらないので大丈夫でした。

一家全員コロナにかかった時は10日間隔離でずっと家にいて、当初は窮屈かなと思っていたんですが、2日間

くらいで体調も戻ったら、意外にもこの隔離期間が一番集中して作品制作に向かうことができました。外出できないのであきらめがついたんですね。外に出ないので体は休まるし、子どもたちは兄弟で遊ばせて何とかなるし、食料も何人かの友達が持ってきてくれて、いつもより豪華な食卓でした（笑）。

14 子育て中の制作において、どのような工夫をしていますか？

都内での打ち合わせや、制作の材料を買いに行く際などに子ども連れでも大丈夫な状況であれば連れていきます。作品の制作手順は、最初に全体の構成を決めてしまえば、あとは考えるというよりは手を動かす作業になります。作業の段階になれば、自宅内のアトリエに子どもがちょろちょろ入ってきててもそんなに邪魔にはならないのですが、インクを使っている時や版を洗ったりする時はとても臭いがきついで、その時だけは入っちゃダメと言ってます。第一子には、1歳ごろから制作の時は邪魔しちゃだめだとすごく強く言い聞かせていました。だからあのやんちゃな子が制作時は邪魔しないし、作品関係のものは触りません。第二子はそんなに言い聞かせなかったからアトリエにも入ってきたりしますけどね。

小さいと昼寝するからいいのだけれど、3歳ころになると寝なくなるから、たくさん体を動かして遊ばせて、疲れさせて寝るようにします。やっぱり子どもが寝てる時が一番制作できる時間です。

15 子育て中の制作について身近に相談できるアーティスト仲間等はいいますか？

特に相談はしません。

知り合いの男性アーティストで子どもが3人いる人がいて、妻が子育てで大変で精神的に追い込まれ、子どもにちょっと強く当たってるというような人の話は聞くことがあるけれど、自分から相談することはないですね。妻は産後鬱になったんですが、そういう時はそばに居てもだめだし居なくてもだめ。難しいんですよね。生後すぐだと子どもと離すこともできない。睡眠不足が原因になることが多いので、なるべく寝られるように、夜中ミルクをあげたりして少し手伝いはしました。

16 今現在、作家活動をするとしたら、どのようなことをやってみたいですか。

☒ リサーチ ☒ 制作 ☒ 展示 ☒ ワークショップ ☒ アーティスト・イン・レジデンス ☐ その他

どれもやりたいし、やっていますね。日常から離れてやりにくい環境に身を置くと、自分が考えたこともなかった作品が出来上がったりする。不便なところにあえて行くことで新たな発見がある。そういう面白さがあるので、期待をもってレジデンスにも行きます。

山に登って山中で絵を描いたこともあって、大概そういう時はいい作品が生まれる気がします。シンガポールに行った時も、展示会場で制作してたんですが、インクを現地で調達したらとても質が悪く、伸び縮みが激しくて、次の日見たらバッキバキに割れててひどかったんですが、それはそれで面白かったので、またそのインクが欲しいなと思ってます。

17 作品制作を継続するためには何が必要だと考えますか？ 特に優先順位の高いと思うものを2つ選択してください。

☒ 家族の協力 ☒ ひとりの時間 ☐ 収入 ☐ 美術に関する仕事への就労 ☐ 仲間の存在 ☐ その他

家族、とくに妻の協力なくして作品は作れないですね。

18 FAS にどのようなサービス・支援・配慮があれば、 子育て中の作家活動がよりスムーズにいくと思いますか。



最近、同級生がギャラリースペースを作って、そこで友達が展示したので見に行ったんですが、見に来ている人が子育て世代で、子どもがいっぱいいました。芝生があって、子どもたちが遊べる空間があったのと、みんなが「〇〇やっちゃダメ」って言わないのでとても楽でした。子どもたちも紙飛行機を飛ばしたり落書きしたり楽しく過ごしていました。子どもの動きを止めてしまうと、子どもが不機嫌になってしまうけれど、自由にできるスペース、遊べるスペースがあると親は楽でいいですね。

美術館は子どもが楽しめないから一緒に行かないです。監視の人に絶対目をつけられて、ちょっとなんかあると「お子様と手をつないでください」って言われたりして居心地が悪い。子どもに「ダメ」って言わないでいい環境をどう作るかですね。

イケアは、遊具がある場所に無料で1時間、4～10歳の子どもを預けられていいですよ。

FASに例えば子どもに工作をさせるスペースがあればいいかもしれないですね。子どもはやっぱり何かを作るのが好き。何かに熱中できるスペースがあると、そばで制作するにしてもはかどります。何もないと、1時間くらいならともかく、3、4時間はもたないですから。

19 お子さんの手が離れたら、どのように活動をしていきたいですか？

小学校高学年にもなると、もう手がかからなくなるだろうから、今まで封印していた山登りなどの趣味を始めたいですね。その時に体力があるかというのはあるけれど。